

ハンドボール

特集

第34回日本リーグプレーオフ 第33回全国高校選抜大会

5



MAY.2010・No.509



[表紙写真：第34回日本リーグプレーオフ女子で初優勝を果たしたソニーセミコンダクタ九州・高橋恵選手]

財団法人 日本ハンドボール協会

<http://www.handball.jp/>



FOR ALL SPORTS OF JAPAN

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

日本リーグ唯一の公式試合球
全日本実業団連盟主催大会
唯一の公式試合球

H312 ヌエバ 国際公認球 楕定球

縫い・人工皮革、3号球、ラテックスチューブ

H212 ヌエバ 国際公認球 楕定球

縫い・人工皮革、2号球、ラテックスチューブ



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川五丁目5-7

2010年競技規則改訂 に期待すること



(財)日本ハンドボール協会常務理事 植村 彰

2009年チュニジア・チュニスガマールで開催されたIHFコーチ・レフェリーシンポジウムにおいて2010年8月1日より実施される競技規則改訂の説明を受け、審判部では競技規則研究委員会・審判審査指導委員会と担当部門ごとに会議を重ね伝達への準備を進めてきました。IHFでは2010年8月1日施行のところ、国内では新年度のスタートに合わせ4月1日より改訂内容の一部について暫定的実施することを決定しました。伝達方法は過去の競技規則改訂時の混乱を教訓とし、「正しい伝達と時期」を検討し取り組んできました。IHFシンポジウムでは「内容の整備はあれども実施を取りやめたり遅らせたりすることはない。必ず実施する。」とIHF/PRCのメンバーは強調していました。が、現在に至るまでにシンポジウムで説明された内容とは違ったいくつかの変更点が生じています。

3月1日、国際ハンドボール連盟(IHF)のホームページに突然、新しい競技規則と変更点についての解説が掲載されました。定期的なIHF/PRCメンバーとのメールのやり取りでは「5月1日に競技規則が発行される。」との情報はありましたが、ホームページへの掲載は正直驚かされました。審判部では、競技規則研究委員会を中心にその内容について確認を行いました。すると、昨年のIHFコーチ・レフェリーシンポジウムにおいて「内容について変更しない」と伝達されていた改訂の中身に大きな変更がなされ、また以前は含まれていなかった項目が新たに出ていることが分かりました。既に国内への伝達として、1月に審判合同委員会(各連盟審判長・ブロック審判長の出席)を、2月にはJHLウインターカップ福井大会で全国都道府県審判長会議を開催し、競技規則改訂についての伝達および説明を既に行ったところでした。IHFホームページの掲載内容に合わせ、審判部では新たな競技規則改訂資料を日本ハンドボール協会ホームページに掲載、各連盟審判長・ブロック審判長からは都道府県審判長をはじめ関係者への周知徹底をお願いしたところです。当初、目指していた「正しい伝達」が今回、情報の変更が重なり一部混乱を引き起こしてしまったことについて誌面をお借りし深くお詫び申し上げます。

今回の競技規則改訂をIHFは当初2010年8月1日より施行するとしていましたが、2010年7月1日に変更されています。また、新競技規則書の発行については、IHFより5月1日に最終版が届く予定となっています。IHFホームページに掲載された競技規則については既に競技規則研究委員会で翻訳が完了しており、最終版との照合を行ったうえ、7月1日の施行前には新競技規則書を発行出来るよう準備を進めています。

今回のIHFが示す競技規則改訂には、ハンドボール競技の概念である相手を尊重すること。とくに、相手を傷つけるような行為についての罰則が明文化されています。

また、ハンドボール競技の見所である6mと9m(フリースローラインとゴールエリアライン)の攻防には、2008年北京オリンピック、2009年世界選手権クロアチア大会の分析からブロックプレーにおけるオフェンス側の許される行為と許されない行為について明確にすることにより、ハンドボール競技がさらにクリーンで発展的な競技となることを願っています。国内においても「平成22年度 審判員の目標」に観客を魅了するクリーンハンドボールを目指すと言う文言を入れました。

全日本総合選手権や日本リーグプレーオフをはじめとする大会では、年々、観客動員数が増加傾向にあり、盛況となっています。

今回の競技規則改訂が、国内においてもさらなるハンドボール人気の上昇契機となることを願って止みません。

第34回

日本ハンドボール リーグプレーオフ



大同特殊鋼は5年連続14回目の優勝 ソニーセミコンダクタ九州は初優勝

第34回日本ハンドボールリーグ総括

日本ハンドボールリーグ機構委員長 高村 誠一

<はじめに>

3月21日に東京体育館で行われましたプレーオフ決勝で、第34回日本ハンドボールリーグが終了いたしました。

リーグ開催に際しまして、試合を準備いただきました開催地協会の皆様、多くのご支援をいただきましたスポンサー各社様、会場に足を運んでくださいましたファンの皆様、また、日本リーグを支えていただきました多くの関係者の皆様に深く感謝申し上げる次第です。誠にありがとうございました。

また、男子世界選手権アジア予選の開催日程変更により、レギュラーシーズンに男子代表選手がプレーできない期間が発生し、当該開催地協会の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

<レギュラーシーズン>

第34回大会は、ハンドボールファン拡大に大きく貢献してくれた宮崎大輔選手のスペイン移籍に加え、これまで日本リーグの歴史を築き、リーグ6連覇という輝かしい戦歴を誇る名門Honda、更には永年リーグを支え、盛り上げてくれたトヨタ自動車撤退するという、リーグの盛り上がりという点では非常に厳しい状況でのスタートでした。しかし、各

チームとも全国各地で気迫あふれるプレーを披露してくれ、開催地協会の大会盛り上げへの地道な努力も相まって、例年以上に盛り上がったレギュラーシーズンになりました。

シーズン中盤以降も男女とも毎週順位が入れ替わるデッドヒートを繰り広げ、女子は最終週まで順位が確定せず、男子は最終週までプレーオフ出場チームが決定しないという非常にスリリングな展開となりました。最終的なレギュラーシーズンの成績は男子1位：大同特殊鋼、2位：トヨタ車体、3位：湧永製薬、4位：トヨタ紡織九州。女子は1位：北國銀行、2位：オムロン、3位：ソニーセミコンダクタ九州でした。

今リーグは、ファン拡大のために開催地協会と各チームとが連携を密にし、これまでの会場でのファンサービスに加え、地域貢献として子供達へのハンド講習会を積極的に開催いたしました。タイトなスケジュールの中ご協力いただきました各チームに感謝申し上げますと共に、このような開催地協会の大会盛り上げに対する様々な工夫は、必ずやファン拡大に結びつくものと確信しております。

<プレーオフ>

プレーオフは、今回東京体育館で行われました。収容人数6,500人という駒沢体育館の倍の会場で、一番懸念したのは



ファンの皆さんで会場が埋まるかどうかでした。関東協会をはじめ地元都県協会の絶大なご協力に加え、政財界のハンドボールOBの方々、各チームの応援団、小学生から一般まで様々な方法でPRを行い、できるだけ多くの皆さんにハンドボールを堪能していただこうと努力いたしました。大会運営も東京都協会、関東学生連盟の皆様のご献身的なサポートを受け、会場に来ていただいた方に少しでも多くの満足を感じていただけるよう努力してまいりました。

結果決勝戦では、アリーナ席、2階席はほぼ満杯で、3階席も半分以上席が埋まり、あらためて集客にご協力いただきました全ての関係者ならびに大会運営を支えていただいた皆様に感謝申し上げます。

試合内容もスリリングだったレギュラーシーズンのおと、男女7チーム、どのチームが優勝してもおかしくない緊迫したものでした。女子はソニーセミコンダクタ九州が、6年連続6回目のプレーオフ出場で悲願の初優勝を果たしました。リーグ3位のソニーがリーグ1位の北國銀行に、前半2点のビハインドを跳ね返し1点差で見事勝利を勝ち取りました。最高殊勲選手には高橋恵選手（ソニーNo.4）が、殊勲選手には横嶋かおる選手（北國No.9）が選ばれました。

男子は大同特殊鋼が5年連続14回目の優勝を飾りました。初のプレーオフ決勝進出を果たし、勢いに乗るトヨタ車体を、大同はまさに王者の意地で跳ね除け、これまた1点差で勝利をつかみました。最高殊勲選手には白元喆選手（大同No.20）が、殊勲選手には銘荊淳選手（車体No.19）が選ばれました。

素晴らしい熱戦を繰り広げてくれた各チーム、スタッフ・選手の皆さんに「素晴らしいハンドボールをありがとう！」と申し上げたいと思います。

<来賓の皆様>

今回も高円宮妃久子殿下、承子女王殿下には、男女決勝戦にご臨席を賜りご観戦いただきました。また、優勝チームへの優勝旗授与、選手一人ひとりへのメダル授与までしていただきました。誠にありがとうございました。

また、安西孝之・日本体育協会名誉会長ご夫妻、竹田恆和・JOC会長、塩川正十郎・元財務大臣、福井俊彦・前日銀総裁ご夫妻、齋藤健・衆議院議員、蓮舫・参議院議員をはじめ多くのご来賓の皆様にもハンドボールの醍醐味をご堪能いただくことができました。

<チャレンジ・ディビジョン開催>

リーグ機構は今年度から、より多くのハンドボーラーに活動の機会を提供することを目的として、チャレンジ・ディビジョンをスタートさせました。参加チームは実業団、クラブ、大学、国体チームとバラエティーに富んでおり、男子全11チームが東西でリーグ戦を戦ったのち順位決定戦を行いました。見事初代チャンピオンに輝いたのは、Honda、トヨタ自動車といった旧日本リーグチームを撃破した、地元千葉国体に向けて強化中のFOGでした。今後更にこのディビジョンを拡充し、日本のハンドボールまた日本リーグ発展につなげたいと考えています。

<第35回大会に向けて>

来年度第35回大会も各地で熱戦が展開されることと思います。より多くのファンの皆様が会場に足を運んでいただけるよう、観戦する側の立場に立った大会運営に努力してまいります。

大会の盛り上げに何より大切なのは、コート上で繰り広げられる質の高いハンドボールですが、それには質の高い審判も必要ですし、厳しいファンの目も重要です。チーム、審判、観客、運営、それぞれがより高い質を追求することがリーグの発展につながると考えています。それが国際レベルでの競技力向上につながり、ひいてはロンドン五輪への道を切り開く一助になればと考えております。

課題を確実につぶしながら、魅力あるハンドボールリーグにすべく関係者一丸となって努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

大同特殊鋼ハンドボール部監督 清水 博之

第34回日本ハンドボールリーグプレーオフを終えて

はじめに、昨年9月に開幕したレギュラーシーズンから今回のプレーオフ終了まで、多くの関係者の方々にご協力ご尽力いただき最後まで気持ちよく試合をさせていただいたことに対し、心より感謝申し上げます。また、遠方にもかかわらず会場まで足を運んで下さったファンや応援団の皆様方、本当にありがとうございました。お陰様で第34回日本リーグプレーオフで5年連続14回目の優勝を飾ることができました。

レギュラーシーズンを振り返ると、1位通過できたことはとても嬉しいことですが、それまでの過程は決して簡単なものではありませんでした。結果は12勝1敗1分でありますが、どの試合も僅かな差でありどちらに転んでもおかしくない試合ばかりであったと感じています。そんな試合を選手達はチーム一丸で最後まで諦めず、個々の役割を徹底し一つ一つ勝ち星を重ねていってくれました。それと平行しながら若手選手やチームも力をつけていったように感じています。

プレーオフ準決勝では、レギュラーシーズンの唯一の黒星となったトヨタ紡織九州との対戦。苦しい試合になるとは予想しておりましたが、前半の3点ビハインドを跳ね返し決勝へ駒を進めることができました。レギュラーシーズンでの経験や1位通過の意地、前年度チャンピオンのプライドなど、僅かな部分で上回り勝つことができたと思っています。決勝戦もトヨタ車体に先手をとられてしまい、なかなか主導権を握ることができず、追いついたもののすぐさま逆転され、最後の最後まで分からない内容でしたが、運も味方し何とか1点差で最高の瞬間を迎えることができました。

一年間、とても苦しい練習を耐えぬぎ、最後の最後までついてきてくれた最高の選手達に感謝しています。

本当にありがとう。

今シーズン終了すると同時に来シーズンがスタートしますが、まずは日本のチャンピオンチームとして出場する東アジア選手権大会に向けて頑張っていきたいと思っています。これか

らも、ハンドボールの「魅力」を追求し「夢と感動」を与え「世界に通用するハンドボール」を目指して、選手一同精進していきますので声援宜しくお願い申し上げます。

大同特殊鋼 白 元喆 [最高殊勲選手賞]

プレーオフV5達成

3月20日・21日に東京体育館行われた第34回日本リーグプレーオフで、5年連続14回目の優勝を達成することができました。応援して下さった、会社の方々、家族、ファン、サポーター、そして一緒に闘ったチームメイトに心から感謝しています。

今シーズンを振り返ると、出足から好調を維持していましたが、終盤になるにつれて接戦の試合が多くなり、プレーオフV5へ向けて少し不安がありました。しかし、厳しい練習をチーム一丸となって乗り越え、最後はみんなで笑うことができました。個人的には今大会 MVP を獲得することができましたが、私一人の力で獲れたわけではありません。若い頃に比べ体力も落ち、今大会も苦しい場面が何度もありました。そんな時にチームのみんなが助け合い、支えあって最後まで一緒に戦い抜いた結果がV5達成だと思います。また、日本ではこの試合が最後の大会だったので、最後の舞台で、最高のプレーをして、最高のチームメイトと優勝を勝ち取りたいという強い気持ちもありました。監督・コーチ・選手・トレーナーがそれぞれの役割をきっちりと果たし、強い気持ちで戦うことが大事だと思います。また、本年度の締めくくりとして、東アジアクラブ選手権が母国である韓国で開催されますが、最高のチームメイトと共に、強い気持ちで戦い抜きたいと思っています。

来シーズンは今年よりもっと厳しい戦いになると思いますが、チームワークと強い心を武器にV6を目指して頑張りたいと思います。

最後に、応援して下さった全ての方々に感謝しています。ありがとうございました。



ソニーセミコンダクタ九州監督 郭 恵静

プレーオフを終えて

この度、第34回日本ハンドボールリーグ、プレーオフにて初優勝を飾ることができ、とても嬉しく思っております。これまで支えてくださった関係者の方々、ファンの皆様、本当にありがとうございました。今回の優勝を私たち以上に喜んでくださるファンの皆様と触れ合いながら、本当に多くの方に支えられ、幸せな環境でハンドボールをやらせてもらっていることを心から実感しました。改めて心からお礼申し上げます。

今シーズンは、怪我人が多く出たこともあり、好不調の波が激しく、レギュラーシーズンは、安定性の欠ける内容の試合が多くありました。決して良い状態で臨めたプレーオフではなく、不安材料はいくつもありましたが、選手たちが本当によく頑張ってくれました。プレーオフまでの期間、練習中はもちろん、ビデオ分析やミーティングも積極的に行い、苦しい状況でも、どうかしよう選手全員が一丸となったことが、今回の結果に繋がったと感じています。

この優勝は、今後のチームの自信につながる大きなものになったと思いますが、追われる立場となったわけではなく、まだまだ上を目指し安定して力を発揮できるよう努力していかなければならないと感じております。チャレンジャー精神を持ち続け、向上心を持って進んでいくというソニーのスタイルを貫くことで、これからファンの皆様にもっとハンドボールの楽しさを伝えていけるよう努力していきたいと思えます。

今後とも、ソニーセミコンダクタ九州 BLUE SAKUYA を温かく見守ってくださいますよう宜しくお願い申し上げます。

ソニーセミコンダクタ九州 高橋 恵 [最高殊勲選手賞]

レギュラーシーズンを終えて3位でのプレーオフ進出。プレーオフ進出が決まっている最終戦でも持ち味が出せずに辛勝。「このままでは勝てない」という不安や焦りの方がはる

かに大きく、いかに課題をクリアし自信をもって臨めるかが勝敗を左右すると思っていました。

そんな中、いざプレーオフに向けて頑張っていこう！という時期でのヘッドコーチのケガ。チームの得点源である監督の出場が危ぶまれる状況に立たされ、正直かなり苦しい状況であることは誰もが感じていました。しかし、この苦しい状況が逆に「とにかくディフェンスで粘って速攻にいこう」「個人技ではなくコンビネーションでシュートチャンスを作っていこう」と全員の結束力を強めることに。

毎日のように一緒にビデオを見て確認・反省をし、明日はこうしていこう、こんなコンビネーションを入れていこうなど、みんなでたくさん会話をしながらハンドボールに向き合う濃い2週間を過ごす中で、「やってきたことを出しければ充分戦える」という自信につながっていきました。

試合が始まってみると、やはりセットオフenseではなかなか得点できず相手に先行されてしまう試合展開。しかし、点差が離れても常にディフェンスで粘って速攻につなげられれば絶対に大丈夫！という自信とチームメイトに対する信頼感がありました。準決勝・決勝とも後半の勝負どころのディフェンスでみんなの結束力が一段と増し突破口を開くことができたと思います。

創部26年目にしての日本リーグ初制覇。「この優勝を待ち焦がれていた」という言葉をかけていただき、改めてたくさんの方々のバックアップや応援があってこそこのチームであることを心から感じました。本当に感謝しています。

でも、ここから新たなスタートであり、このチームの真価が問われていきます。今回の優勝に満足することなく、さらに高みを目指して日々ハンドボールと向き合っていきたいと思えます。



戦評

【男子】

準決勝：3月20日（土）

大同特殊鋼 36 (12-15, 24-17) 32 トヨタ紡織九州



トヨタ紡織九州の
スローオフで試合開
始。両チームともデ
ィフェンスラインを
上げた固い守りで点
が入らない。開始5
分、トヨタ紡織・阪
のポストシュートが
決まり初得点とな
る。そこから大同も
サイドシュートを決
め、ゲームが動き始
める。その後、トヨ
タ紡織は攻めあぐみ
大同がリードする
も、トヨタ紡織のGKの活躍もあり両チームの点差は開かない。しかしトヨタ紡織は中島の個人技で点を重ね、24分で12対12の同点に追いつく。そこで大同がタイムアウトを請求するが、前半残り4分半でトヨタ紡織は更に阪、中島の3連続得点を決め、15対12のトヨタ紡織の3点リードで前半を終える。

後半に大同の速攻が出始め、追撃開始。大同は白の4連続得点などで8分に同点に追いつく。そこからは1～2点差の僅差で試合が進む。ゲーム内容は大同が押しているもののGKが当たらず、単発のシュートが入ってしまう。逆にトヨタ紡織GK松野のナイスセーブが光る。点の取り合いで好ゲームが展開され、19分で27対27の同点、さらに残り4分で同点と、緊迫した内容に。しかし残り4分をきってから大同は白、山城、千々波で6得点、ゲームを決めた。退場者が両チーム合わせて8人出る、激しい試合であった。紡織は退場者の多さが敗因か。最後まで手に汗握る、プレーオフ準決勝にふさわしい好カードであった。

トヨタ車体 22 (11-11, 11-10) 21 湧永製薬

プレーオフ男子準決勝2試合目は、レギュラーシーズン2位トヨタ車体と3位湧永製薬の対戦。湧永のスローオフで始まり、先制は車体。No.19銘苅の速攻など3連続得点で3対0と好スタートをきるが、湧永もNo.17古家のサイドシュートなどですぐ同点。その後は、両チームのGKの好セーブにより、一進一退の攻防が続く、前半18分過ぎまで7対7

の同点の展開に。
20分過ぎに車体
No.18の崎前の連
続サイドシュート
で9対7と2点リ
ード。しかし、湧
永もNo.23東長濱
のステップシュ
ートやNo.4坂本の速
攻で追いつき11
対11の同点で前
半終了。

後半に入り、湧
永はNo.13新のサ
イドシュートやNo.
15今井のポストシュートで後半7分17対13と4点リード。その後も湧永のペースかと思いきや、車体はGK No.16坪根を軸に堅守からの速攻がさえ、No.19銘苅のサイドシュートやNo.13小沢の速攻で20対21、1点差に追いつける。そして直後にはNo.18崎前の同点シュート、27分過ぎにはNo.22門山の逆転シュートが決まり、22対21でトヨタ車体が接戦を制し勝利をおさめた。湧永はレギュラーシーズンのリベンジをはたせなかった。

決勝：3月21日（日）

大同特殊鋼 38 (19-19, 19-18) 37 トヨタ車体

男子決勝は、5連覇を狙う大同と初の決勝進出を果たしたトヨタ車体との対戦となった。車体のフローオフで始まり、先制も車体。No.19銘苅のミドルシュートやNo.5高智のブラインドシュートなどで前半9分7対3とリード。大同もGK No.16東を軸に、固い守りからNo.4末松、No.15山城の速攻など4連続得点で前半13分7対7の同点とする。その後



は、常に車体がリードするが、大同もNo.9 武田のロングやNo.20 白の個人技などで前半21分13対13の同点。その後、車体は3連続得点でリードするも大同が常に追いつき19対19の同点で前半終了。

後半に入り、大同はNo.20 白のミドルシュートで初めてリードする。しかし、車体もNo.8 藤田のポスト、No.15 鶴谷のサイドなどですかさず逆転し、後半9分、25対23とリード。しかし大同は、13分すぎ車体No.8 藤田の退場を期に、No.20 白のカットインやNo.4 末松のサイドシュートで18分すぎ32対29と逆転する。しかし、車体もNo.18 崎前の速攻などで21分すぎ33対33の同点に追いつく。その後は、一進一退の攻防が続く、No.14 千々波の得点が決勝点となり、接戦の末、大同が38対37の1点差で5連覇を成し遂げた。

【女子】

準決勝：3月20日（土）

ソニーセミコンダクタ九州 22(9-10,13-8)18 オムロン

レギュラーシーズン2位のオムロンと3位のソニーの一戦、ソニーのスローオフで試合開始。立ち上がり、ソニーは緊張のためか、キャッチミス・シュートミスが目立ち、オムロンNo.17 東濱のロング、No.8 石立のカットイン等でオムロンが4対0とリードした。ソニーはキーパーの好セーブで落ち着きを取り戻し、No.4 高橋のサイドからの2連続ゴールで追い上げた。お互いに激しく、高位置のディフェンスで一進一退を繰り返す、前半は10対9のオムロンの1点リードで終了した。

後半開始直後、ソニーは張、長野の連続ゴールで逆転する。しかしオムロンも藤井の2ゴールを含む3連続ゴールで再逆転する。後半9分、15対12とオムロンがリードしていたが、ソニーNo.1 GK 中島の好セーブが起爆剤となり、ソニーが連続ゴールなどで徐々に追い上げる。17分、ソニーはNo.5 田中のサイドからのゴールで逆転に成功。そのまま速攻、ポストと多彩な攻めでオムロンを引き離し、ソニーが逃げ切った。双方、GKが好セーブを連発し、引き締まった好ゲームとなった。



決勝：3月21日（日）

ソニーセミコンダクタ九州 25(13-15,12-9)24 北國銀行

悲願の初優勝を狙う両チーム。試合の幕開けは北國のエース・上町のロングによる2連取。ソニーの鮮やかなスカイプレーと持ち味を出して始まった。北國は固いDFで5分に3対1とリード。ソニーは昨日から好調のNo.4 高橋の速攻やGK 飛田のファインセーブで7分に4対3と逆転。ソニーのカットインを



北國が守れずに罰則が出る。北國はNo.18 若松の的確なサイドシュートで同点とする。北國No.6 佐久川の投入で流れが変わり、ソニーDFの足が止まるところを北國がカットインで切りさき、18分9対8と再逆転する。前半は15対13と北國リードで折り返す。ソニーは前半8得点の高橋の活躍が光った。

後半、北國がNo.4 上町の得点やGK 田代の好セーブで流れをつかみ、7分20対15と5点差をつける。両チームともディフェンスの足がよく動き、オフェンスでは小気味よくボールを回し、緊迫したゲームが続く。ソニーはNo.1 中島・No.12 飛田、両GKの好守により追撃開始。18分に22対22と同点。その後北國が2連取し24対22とする。北國に退場者が2人出て、DF4人のピンチをGK 田代が好セーブで助けるものの、26分に24対24の同点となる。残り1分、北國のベンチが動き、同点の局面でタイムアウト。最後の指示をするが、残り30秒ソニーNo.4 高橋が本日14得点目となるゴールで勝ち越し。試合はそのままソニーが1点差で逃げ切り、歓喜の初優勝を飾った。

